

■賛同者からのメッセージ■



丁度今年は鴨長明の方丈記から八百年が経った。方丈記には当時の天変地異の震災や津波の恐ろしさが書かれている。我が国は度々歴史上でも各地に地震、そして富士山の噴火など多くの災害があり、その都度多くの犠牲者が出た。火山列島である以上、何時何が起こっても不思議ではないが、そんな事どもに人々は耐え忍び、互いに手を貸し合い助けあつて今日までやってきたのである。東日本大震災によって大きな被害を受けた自然や文化遺産の復興支援を目的としたこの日本ナショナルトラストの活動は、日本人がこれまでに培ってきた相互扶助の精神の現

れだと思っている。外国でもいろいろな災害があるが、日本が災害に遭った時の日本人の沈着さ、そして救い合っている健気な姿をニュースで見た外国人は驚嘆する。自分の国であれだけ大きな災害があれば、人々は沈着どころか暴動化し一時的に無政府状態になるともいう。震災の御見舞いと同時に「日本の方の沈着さと心の暖かさを感じる」とむしろお褒めの言葉も他国でいただいた。

私は一盞のお茶をもって少しでも人間同士がいがみ合わない楽しい和らぎの世の中をつくりたいと、六十年以上世界中にお茶の心を伝えてきた。その効果は、蒔いた種から芽が育ち、六十年たつてやっと花を咲かせるようになってきた。何にもかたよらない一盞のお茶の緑の静けさの中に、多くの方が入ってきて一生懸命お茶を点てられる。それを心静かに戴かれる。差別も何もない真の平等の世界、そして其処には人と人との深い絆が結ばれていくのであ

る。今の日本は何か混沌（カオス）とした騒がしい世の中になってきている。何か事が興っても誰も関心を持たない。何か他のところでもものが、という他人事のような思いで見過している。和という心でもって生まれた日本の国、かつて古代の国造りは大きな和の力ということで大和が生まれた。聖徳太子の「和を以て尊しと為す」日本の最初の憲法ともいふべき法制の第一条である。この「和」は平和につながるが、それと共に「和」には「調和」が必要で、バランスがとれないと不均等となり物事が土台から崩れてしまう。調和をとるにはお互いが尊び敬い合うことである。茶道の精神は「和敬清寂」でその深い哲学的な教えこそ、今の日本人が身心につけて世界に臨んでいくことが必要なのである。

（ユネスコ親善大使／茶道裏千家前家元）

千家